

施策評価シート(令和2年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (8)自然との共生

(評価担当者)

生活文化部長 青木 正彦

基本施策が目指す姿

豊かな自然の恵みが、良好に保たれ、次世代に受け継がれています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	自然公園の利用者数	人	13,717	H27	10,520	8,465	9,154	9,279		20,000
2	環境林整備面積	ha	1,187	H27	1,382	1,451	1,531	1,581		1,700
3										
4										
5										

市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	自然環境が豊かである	重要度 1.27	1.19	1.21	
		満足度 1.03	1.10	1.12	
2	自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度 1.13	0.95	1.05	
		満足度 0.17	0.22	0.18	
3	森林・里山や農地が保全されている	重要度 1.11	0.99	1.07	
		満足度 0.04	0.11	0.01	
4	自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度 1.04	0.90	0.99	
		満足度 0.27	0.25	0.29	
5		重要度			
		満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	多様な主体と連携・協力し、鈴鹿川等源流域や里山公園、森林公園等を活用したイベント等の取組を通して、市民が自然環境に触れる機会の創出や自然資源の保全に努めることで、多様な生態系の確保と環境保全意識の高揚に繋がることができた。一方で成果指標における自然公園の利用者数は、前年度より増加したものの、目標値とは大きく乖離している。森林・里山・農地の保全については、森林経営管理事業等を着実に進めたことで森林の持つ公益的機能の発揮、林業経営の安定と持続的発展に寄与できた。また、農地の多面的機能支払事業及び中山間地域直接支払交付金事業において、それぞれ1組織1集落が新規加入となるなど、国県の交付金を有効に活用し、農地の保全管理、農道や水路等の維持管理につなげることができていると考えられることから、総合評価はBとした。

反省点・課題

本市の豊かな自然の中で「生物多様性」の恩恵を受けて生活しているが、「生物多様性」の言葉、考え方が広く市民に知られていない。また、自然資源を保全するため、事業活動が環境に与える影響について、啓発する必要がある。一方、森林の持つ公益的機能を高めるため、環境林の整備や森林保全意識の醸成等を図っていく必要がある中、国県の補助金は減少してきており、令和元年度からは市単独での上乘せ事業を実施し、事業量の確保に努めている。また、農地の持つ自然環境の保全などの多面的な機能の維持・発揮を図るため、中山間地域における農業生産活動等を支援し一定の効果があったものの、その一方で市全体では耕作放棄地が増加傾向にあるとともに農地保全の取組を担う組織の高齢化等により保全活動が困難になってきていることから、引き続き担い手の維持・確保が求められる。

今後の展開方針

市民が本市の豊かな自然との共生を図るため、引き続き、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や自然保護団体と連携し、市民が自然とふれあい、生物多様性の恵みを享受できる機会を提供することで生物多様性の意識醸成に繋げる。更に、自然資源を保全するため事業者に対し、市環境保全条例等の関係法令に基づく指導を行ない環境と経済の調和が図られるよう努める。また、森林の保全については、森林の適切な管理と環境林整備区域の拡大を図るため、森林経営管理事業並びに森林環境創造事業を推進する。農地保全については、耕作放棄地の発生防止と農地農村が有する多面的機能を維持、発揮していくため、地域への積極的な働きかけに努め、農地、水路、農道などの地域資源を保全する活動拡大に向けて支援を行う。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		自然資源の保全					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	開発行為を行う者に対し、開発区域及びその周辺地域への自然環境との調和を保つよう指導するとともに、環境アセス制度に該当する開発行為については、環境の保全に関する事項を調査審議するため、市環境保全審議会を開催し指導した。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会が主体となり、自然資源を活用したイベントなど関連事業に取り組んだ。		開発行為を行う者が市へ提出した開発行為計画書に基づき、自然資源に影響が及ぼさないように指導ができている。また、指導に基づく開発行為が行われているか、監視に努めることができている。 さらに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会によるイベント等により、源流域における市民の自然資源を保全する意識醸成に努めることができている。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		森林・里山・農地の保全					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	環境林の間伐を実施し森林経営管理事業では、森林境界、森林状況調査を行うなど事業を進めることができた。また、中山間地域直接支払事業では、第5期対策が始まり新規取組1集落、多面的機能支払事業では水利組合への説明会等により令和3年度より新規1組織が取り組み予定である。市単土地改良事業により農道、水路の維持管理が行われた。		公益的機能の発揮、林業経営の安定化と林業の持続的発展の推進に寄与することができた。森林保全や木材利用に関する啓発、情報発信に努めている。中山間地域直接支払、多面的機能支払事業共に国県の交付金を有効に利用し農道、水路等農地維持につながった。また、市単土地改良事業補助金による施設維持も図られ推進することが出来た。			
		まずは進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17030	森林環境創造事業		主	17,279 / 17,180	B	B
	17031	中山間地域等直接支払交付金事業		主	14,700 / 13,077	A	A
	17032	田園環境保全事業		主	3,800 / 3,157	B	B
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		主	3,485 / 3,482	A	B
	17034	多面的機能発揮促進事業		主	14,308 / 14,107	B	B
	19008	森林経営管理事業		主	21,670 / 21,507	A	B
	12008	森林環境整備基金積立金		標	8,303 / 8,291	A	A
6019	市単土地改良事業		標	40,870 / 39,509	A	A	
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		自然とのふれあいの機会の創出					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	亀山里山公園や亀山森林公園等を活用し、市民団体と連携しながら、里山塾の開講や市内幼稚園・保育園・小学校児童、生徒への環境学習及び「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」が主体となり、自然体験や環境教育など市民が身近に自然と触れ合い、学ぶ機会を提供した。		自然公園を活用したイベントや鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の取り組みを通じて、自然環境を保全することの理解やその大切さを学んだ機会を創出し、市民の環境保全意識の高揚に繋げることができている。			
		まずは進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	4067	里山公園管理費		標	4,744 / 4,387	A	B
	6055	森林公園管理費		標	3,578 / 3,543	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向 多様な生態系の確保							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	「第2次環境基本計画」に内包する形で「生物多様性地域戦略」の策定に取り組んだ。また、市民活動団体等と連携して、里山公園等を活用し希少動植物の保護・増殖に取り組んだ。一方、外来魚や特定外来生物(アライグマ等)の駆除に取り組む市民や市民団体に必要な資材を提供するなど活動の支援を行った。		評価	「市生物多様性地域戦略」の策定にあたって市民活動団体と意見交換するなど多種多様な生き物の保全及び持続可能な利用を推進する基盤づくりに努めている。また、市民や市民団体の外来生物の駆除を通して、市民意識の向上に寄与している。		
							順調に進んでいる
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果
	事業者と協働した希少野生動植物の保護活動					A	A